

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700055		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家梅津 ユニット1		
所在地	京都府京都市右京区梅津石灘町11		
自己評価作成日	平成24年3月8日	評価結果市町村受理日	平成24年6月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2690700055&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年4月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「たのしい家の基本方針は、「安心と安全の護られた生活」、「楽しい、生きがいのある生活」、「ゆとりのある生活」、「語り合える生活」全てを入居者様にお送りいただけることを第一に考えてまいります。又、「あたたかく・楽しく」というホーム独自の理念を大事にし、家と同じような生活が継続していけるよう努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは入居した利用者をケアする中で管理者、職員全員で「あたたかく・楽しく」という理念を作られています。住み慣れた家のように暖かく、アクティビティや社会資源を活用することで楽しい生活を送れるようにという思いを込めています。ホームでは地域密着型サービスを常に念頭に置き地域の行事には利用者と共に参加し、ホームの行事には地域の人に参加して貰えるよう取組んでいます。自治会に加入し、地域の老人会や婦人会の人が集まる「すこやかサロン」にも利用者と一緒に参加しています。ホームの周辺に、利用者や家族、地域の人等で花を植え、地域の方のアドバイスで芋、ねぎ、タマネギなどの野菜も作り、利用者と一緒に収穫し、調理に用いたり、ボランティアの協力を得て焼き芋大会を開催するなど、地域の人と利用者の交流に積極的に取組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あたたかく・たのしく」という理念を共有し、グループホームの特性である個別の対応・柔軟な対応をこころがけています	利用者が自宅と同じような雰囲気の中で生活できるようにという思いを込め、管理者と職員で作った理念「あたたかく、楽しく」を職員間で共有し、理念に沿ったケアが出来ているか職員会議等で話し合い振り返りや確認を行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に参加して頂けるイベントを開催し、地域の一員として受け入れていただけるよう努めています	社会福祉協議会や運営推進会議、地域ケア会議などで地域の情報を得ており、地域のバザーへの出品や区民運動会、すこやか学級などに参加しています。ホームで開催する焼き芋大会やAED・普通救急救命士の講習会等、地域の方の参加を得ています。自治会にも加入し、婦人会のボランティアの来訪もあり地域との交流が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や事業所主体のイベントを開催し、ホームに足を運んでいただける機会を作っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催ごとに議題を設け、サービスの向上に努めています	運営推進会議は利用者や複数の家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム長などの参加を得て2ヶ月に1回開催しホームの現状や行事報告と今後の予定について話し合い、出てきた意見をサービスの向上に活かすよう努めています。消防署員による防災や避難についての講義と訓練を行う事もあり、議事録は家族に送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の研修・連絡会には積極的に参加し、必要に応じて訪問しています	運営推進会議の議事録を届けたり、区分変更の手続きなど行政には常に足を運んでいます。月1回開催される事業者連絡会や研修会に参加し交流を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・カンファレンスにて身体拘束についての理解を深めています	職員は法人内外の研修に参加し、伝達研修をすると共に資料を回覧し身体拘束についての理解を深めています。またカンファレンス等の会議の中で話し合いを持ち拘束をしないケアに努めているか確認をしています。玄関は施錠せず、利用者の行動パターンを十分把握する事で危険を防いでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内外の研修・カンファレンスにて虐待についての理解を深め、防止に努めています。		

グループホームたのしい家梅津（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内外の研修にて理解を深め、必要に応じて支援しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約においては説明に十分な時間を設け、納得していただけるよう努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・アンケート等にて意見・要望を把握し運営に反映しています。	面会時、電話、メール、アンケート方式による満足度調査、運営推進会議等、家族の意見や要望を聞く機会が多くあります。出てきた意見は職員会議等で検討し運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼・ユニット会議・職員会議にて、意見や提案を吸収し、運営に反映しています	朝礼や職員会議以外にも個別面談や随時のヒアリングなどで職員の意見、要望を聞く機会を設けており、職員の提案で侵入を防ぐため門扉を閉めたり利用者をケアする中での気付きを書き留める「ひもときシート」の利用など運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸び制度という人事考課制度にて、職員個々の努力や実績を把握し給与に反映しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員は3日間の本社での研修をうけたあと業務に従事していきます。また、社内外の研修に参加できる機会を設けています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ連絡会・他施設の見学会等を通し同業者と交流をもつ機会を図っています		

グループホームたのしい家梅津（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントをスタッフ間で共有し、入居当初は安心していただけるようなコミュニケーションを図っています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に現在の状況、不安な事を確認し関係作りに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経済面・病歴等、今の現状に対しどのようなサービスが適当か、ご本人・ご家族と話し合い適切なサービスを受ける事ができるよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同作業・レクリエーション等を通し馴染みの関係が築けるよう努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活を通じて本人の希望や意向を把握し、本人、家族、介護職員でカンファレンスを行い介護計画を作成し実践しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していたサービス等、継続できるものはホームでも継続しています。又、以前住んでいた家の近隣の方の訪問もあります。	入居前に住んでいた家を訪れたり、住んでいた地域へドライブに出かけたりしています。また入居前のサークル仲間や近隣の友人の訪問があるなど馴染みの関係が途切れないよう希望に応じて支援するよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で関係性を把握し、食事席・外出時のグループ分け等に反映しています。		

グループホームたのしい家梅津（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的なかわりが必要な場合は、相談や支援を行います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を伺うことが困難な場合でも、ひもときシートを活用しできるだけ本人本位になるよう検討を重ねています	職員が利用者との会話や日々の様子を書きとめた「ひもときシート」を元に、利用者の意に添わない状態が起きていないかなど行動を観察し、会議で話し合い本人の意向に添える様検討しケアプランに繋げています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に現在の状況、不安な事を確認し関係作りに努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひもときシート・介護記録・アセスメント・往診・訪問看護を通じて心身の状態の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の意向を把握し必要に応じてカンファレンスを行い介護計画に反映しています	日々の記録やアセスメントを基に利用者・家族の意向に沿った介護計画を作成しています。日々のモニタリングと1か月から3か月に1回のカンファレンス時に評価を行い、計画に沿ったケアが実施出来ているか確認をしています。6か月に1回見直し、医師や看護師、家族の意見を集約し状況に応じて随時計画を変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・ひもときシートを利用し介護記録の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の状況に応じ、柔軟に対応できるよう努めています		

グループホームたのしい家梅津（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、多くの選択肢を入居者の方々に提供できるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を選ぶ事ができること、協力医との連携状況を説明し決めてもらっています	入居時に今までのかかりつけ医の受診が可能である事を伝えており、歯科受診を継続する利用者もいます。協力医による内科1回、精神科1回の月2回の往診は全員の利用者が受けています。治療が必要な時は医師からの連絡により家族が付き添い通院しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に変化があった場合は、訪問看護に24時間連絡を取れる体制にあり、必要に応じて適切な医療機関への連携、ホーム内での対応のアドバイスをさせていただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者(Dr・Ns・相談員)・ご家族様と連携をとり現状の把握、情報交換に努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における対応に係る指針について説明し同意をえています。重度化した場合には、医師と家族とホームで話し合いを重ね、個々にあった対応をしています。	ホームは終末期対応の指針を作り、ターミナルケアについてホームでできる事を入居時、利用者、家族に説明し同意を得ています。利用者が重度化した際、看取りに向けて医師と家族とホームとで話し合いを重ね、最終的に家族が病院を希望した事例があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急対応や初期対応についてはカンファレンスなどで定期的に全職員に説明し実践できるようにしています。又、ホーム内で普通救命講習も実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行っています。そのうち1回は、夜間想定で実施しています。訓練時は近隣の消防署の職員の方々に立ち会っていただいています。	防災訓練は年2回昼夜想定で消防署員立会いのもと実施しており、運営推進会議に消防署員出席の際は講義と訓練を行い、地域にも声かけをしています。地域の防災訓練には参加しています。	

グループホームたのしい家梅津（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者様の今までの生活状況を把握し、人格を尊重しながらもよそよそしくならないような声かけをしています。	職員は法人主催の接遇マナーの研修に参加し、人格の尊重やプライバシーについて理解を深めています。日々のケアの中で不適切な言動が見られた場合には職員同士で注意し合ったり管理者が注意をする事もあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望は取り入れ、自己決定の難しい方は日常的なケアの中で思いを汲み取るようにしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の入居者の方とのコミュニケーションを通し、できる限り要望に応えることができるよう努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回以上の訪問理容、外出先に適した服装等身だしなみに気を配る日を設けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方の能力に応じて、食事準備・後片付けをスタッフと共に行っています。	決められた献立に合わせて食材が届きません。食事の準備や後片付けは野菜を切ったり、洗い物をするなど利用者の得意な事、できる事を手伝ってもらっています。毎月食べたい物を買って調理まで利用者と一緒にやる日があり、正月やひな祭り等の行事食もホームで考え作っています。また外食、出前食の日も設けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は記録に残し、好みの飲み物・食事等を把握し提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各食後口腔ケアを行い、必要に応じて訪問歯科に受診を依頼している		

グループホームたのしい家梅津（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々の状況にあわせた時間で声かけや誘導を行っています	トイレでの排泄を基本とし利用者個々の排泄パターンを把握して声掛けや誘導を行っています。紙パンツを使用していた利用者が、布パンツにパッドを使用する事で皮膚の状態が改善するなど、快適な生活に繋がった事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて個々の排便状況を把握し、内服薬に頼らない排便コントロールを心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の2人以上いる7時～20時までの間で、希望にあわせて入浴できるように支援しています	入浴は週2回以上とし、朝7時から夜8時まで可能で入浴が好きな利用者は毎日でも可能です。一人ひとり毎回湯を入れ替え、シャンプー、リンスについては好みの物を使用している利用者もあります。菖蒲湯やゆず湯など季節に合わせた湯も楽しめ、現在入浴拒否の利用者はいません。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間・起床時間は特に決めておらず、個々の生活習慣にあわせている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個々のファイルにて管理しており、副作用等に注意しなければならない内服薬に関しては連絡ノート等を使用し注意を促している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩・買い物・家事等それぞれの状況に応じた支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ外出を行っている。又、地域の行事等に参加する機会を持つようにしている	天気の良い日は戸外に出かけ、利用者の希望で買い物やドライブに出かけるなど、外出の機会を多く持つようにしています。毎月家族に送付するホームの通信で初詣、梅林、花見、紅葉狩りなど季節の行事予定をその都度、知らせており毎回参加する家族もいます。	

グループホームたのしい家梅津（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力や希望に応じ、お小遣いを管理し使う機会を持てるように支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手な配色は避け、なるべく落ち着いた環境で過ごしていただけるよう配慮しています。又、季節に応じた風物を飾っています	リビングの空調管理は加湿器を設置し、温度計を用いながら体感温度も考慮し快適に過ごせるように配慮しています。掃除は職員が夜間に行い清潔に保たれています。浴室の手すりには、赤いテープを貼りわかりやすくしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に、ソファを2つ別々の場所に配置し各々が個別のスペースを持てるよう配慮しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様・ご本人と相談し、以前の生活環境に近づけるよう使い慣れた家具を持ってきていただき落ち着いた暮らせる居室作りをしています	居室はロッカー、エアコン、ハンガー掛けが備え付けられ、畳を敷いて布団を使用する利用者もいます。カーテンやテレビ、仏壇、タンス、脇机、コタツ、額、植木などを持ち込み自宅を再現してみるなど、居心地よく過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすく・簡単に様々なものを使用することができるよう配慮しています		